

(1日目)：8月2日(土) プログラム

A会場：一橋講堂(2F)

■10:00～10:05 開会挨拶

現地開催

オンデマンド配信

■10:05～11:00 会長講演

パブリックメンタルヘルスとトラウマインフォームドケア

現地開催

オンデマンド配信

座長：高橋 晶(筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学
茨城県立こころの医療センター 地域・災害支援部
筑波メディカルセンター病院 精神科)
演者：西 大輔(東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野)

■11:10～12:10 戦後80年特別講演

現地開催

オンデマンド配信

第二次大戦連合軍捕虜・抑留者問題とPTSD～日本が与えたトラウマ

座長：長峯 正典(防衛医科大学校 防衛医学研究センター 行動科学研究部門)
演者：中尾 知代(岡山大学社会文化科学研究科 行動学科目)

■13:40～14:40 基調講演

現地開催

オンデマンド配信

認識的不正義とトラウマー当事者研究の視点から

座長：大江美佐里(久留米大学)
演者：熊谷晋一郎(東京大学先端科学技術研究センター・東京大学多様性包摂共創センター)

■15:00～17:00 大会企画シンポジウム

現地開催

オンデマンド配信

当事者とともに考えるトラウマティックストレスとレジリエンス—対話し、協働する私たち—

企画者・座長：白川美也子(こころとからだ・光の花クリニック)
座長：大岡 由佳(武庫川女子大学 心理・福祉学部社会福祉学科)
指定討論者：熊谷晋一郎(東京大学先端科学技術センター 当事者研究分野)
シンポジスト：ト田素代香(当事者支援HP「THYME」)
丘咲つぐみ(一般社団法人 Onara)
香坂ちひろ(International Foster Care Alliance)
中村 舞斗(虐待どっとネット)
水谷みつる(トラウマリカバリーカレッジあさがや)

■17:00～17:20 総会

現地開催

B 会場：中会議場 1～4 (2F)

■12:30～13:30 ランチョンセミナー①

現地開催

PTSD の診断的位置付け

座長：榎屋 二郎（東京医科大学精神医学分野 主任教授）
演者：金 吉晴（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 名誉所長・顧問）
共催：大塚メディカルデバイス株式会社

D 会場：中会議場 1 (2F)

■17:15～18:15 ポスターセッション

現地開催

オンデマンド配信

- P-1 動機づけ面接国際ネットワーク (MINT Forum) におけるワークショップ提供の試み～レジリエンスから PTG (心的外傷後成長) の促進に向けてある自死遺族の試み～
青木 世識 (カトリック麴町 聖イグナチオ教会 信徒)
- P-2 虐待の“その後”をめぐる試み—『ここいま』の活動報告と今後の課題—
真田 悠生 (大阪大学大学院 法学研究科、一般社団法人 TICC 研究員)
- P-3 解離性同一症 (DID) に対するトラウマ焦点化療法実施についての検討
-NET (ナラティブ・エクスポージャー・セラピー) を用いて -
荒川和歌子 (南平岸内科クリニック 臨床心理部門)
- P-4 犯罪被害者における周トラウマ期解離と Tonic Immobility の関連に関する文献検討
金井 講治 (大阪大学大学院医学系研究科 精神医学)
- P-5 性暴力被害者のためのワンストップ支援センターにおける支援者の語りにみる代理受傷と克服
岡本かおり (清泉女学院大学 人間学部)
- P-6 トラウマインフォームドケアに対する態度と主体価値との関連についての検討
小西 優歌 (東京大学 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野)
- P-7 労働災害後の短期的なトラウマ症状の発生率と危険因子：台湾高雄市立小港病院での労働災害の診断と治療の認定医療機関としての経験
楊 鎮誠 (台湾、高雄医学大学、高雄医学大学附属病院、高雄市立小港病院 産業医学科)
- P-8 トラウマ歴のある親子に対する親子相互交流療法 (PCIT) の治療効果
井上 直美 (弘前大学大学院 保健学研究科心理支援科学領域)
- P-9 支援困難対象におけるエンパワメント阻害要因の検討；ルワンダにおける事例の分析と文献的考察
根本 千里 (元 JICA)
- P-10 コンパッション・フォーカスト・セラピーを勧められたうつ病や不安症の人たちはどんな心理的特徴を有しているのか？
—小児逆境体験と心理的変数との関連の検討—
浅野 憲一 (筑波大学 人間系心理学域)
- P-11 急性期性暴力被害者向け Web プログラム (支援版 SARA) の有効性の検証
今野理恵子 (武蔵野大学 認知行動療法研究所)
- P-12 第三者からの痴漢被害者に対する評価—被害者・知覚者要因に着目して—
仁義 優里 (徳島大学大学院 創成科学研究科臨床心理学専攻)
- P-13 オートエスノグラフィーを用いた性暴力被害研究における研究倫理に関する検討
田中 里実 (青山学院大学 教育人間科学部心理学科、東京都立大学)
- P-14 相手側の PTSD 診断により別室授業の措置を受け適応障害となった小学 5 年男児例の検討
國塩 勝三 (岡山博愛会病院 脳神経外科)

- P-15 性暴力被害者の経時的な抵抗行動・解離反応に関する調査
山本このみ（武蔵野大学 心理臨床センター、武蔵野大学 認知行動療法研究所）
- P-16 ペアレントトレーニングに参加する親の小児期逆境体験の割合—養育スタイルとの関連も踏まえて—
高山 桃香（兵庫県こころのケアセンター）
- P-17 児童期に家庭内性暴力を受けた女性たちのリカバリーに寄与・阻害する要因についての考察：複線経路・等至性モデル (TEM) による分析
松本 衣美（東京大学大学院 医学系研究科精神保健学分野）
- P-18 ふくしま心のケアセンターの活動と課題：福島災害被災者への支援の現状
松島 輝明（ふくしま心のケアセンター）
- P-19 ふくしま心のケアセンターの活動と課題：福島災害被災者への精神保健・心理社会的支援
竹林 唯（福島県立医科大学 医学部災害こころの医学講座、
一般社団法人福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター）
- P-20 シリアにおける人道危機の影響を受けた青少年たちの PTSD とその脆弱的要因の検討
大川 梨恵（武蔵野大学 人間社会研究科）
- P-21 アサーション・トレーニングの効果に関する文献レビュー
浅野 敬子（武蔵野大学 通信教育部人間科学部）
- P-22 心的外傷後ストレス症状を呈する青少年を対象にした認知処理療法（Cpt for Adolescent and Young Adult with Pts: CAYAP）の開発と予備的効果の検証
片柳 章子（東洋大学 社会学部社会心理学科、国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター）
- P-23 犯罪被害者支援における警察心理職の役割について—支援事例の分析から
保崎恵理子（京都府警察本部）
- P-24 大学生の逆境の小児期体験の影響とレジリエンスに応じた学生支援を行うための予備的調査
吉田 博美（大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科）
- P-25 トラウマを抱えた高校生がレジリエンスを取り戻すまで～ボトムアップアプローチの実践と効果～
山下 達也（岐阜市民病院 小児科）
- P-26 ボスニアにおける思春期・青年期の子供たちの学業成績：紛争後のストレス症状、自己コントロール感覚、社会的サポート、時間経過の影響
正司孝太郎（人間環境大学 看護学部看護学科）
- P-27 PTSD 患者の在宅での睡眠の実態—睡眠時間は取れているが質が低下？
関場 遥（筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、国立精神神経医療研究センター精神保健研究所）
- P-28 PTSD に対するオンライン持続エクスポージャー療法の多施設ランダム化比較試験：研究プロトコール
井野 敬子（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）
- P-29 治療者による操作でテーラーメイド音 VR 作成を可能にするシステムの紹介/体験（イヤホン持参推奨）
山内 由大（筑波大学 システム情報工学研究群）

(2日目)：8月3日(日) プログラム

A会場：一橋講堂(2F)

■9:15～10:45 シンポジウムA1

現地開催

オンデマンド配信

心理支援加算のなかでプロトコルベースの心理療法(PE,EMDR,TF-CBT,CPT)をどう実施するか

企画者：伊藤 正哉(国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター)
齋藤 梓(上智大学 総合人間科学部心理学科、公益社団法人被害者支援都民センター)
座長：伊藤 正哉(国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター)
齋藤 梓(上智大学 総合人間科学部心理学科、公益社団法人被害者支援都民センター)
シンポジスト：伊藤 正哉(国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター)
齋藤 梓(上智大学 総合人間科学部心理学科、公益社団法人被害者支援都民センター)
菊池安希子(武蔵野大学 人間科学部)
福田 理尋(岡山県精神科医療センター)

- A1-1 診療報酬の心理支援加算で認知処理療法をどう活用するか
伊藤 正哉(国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター)
- A1-2 診療報酬の心理支援加算で持続エクスポージャー法のエッセンスをどう活用するか
齋藤 梓(上智大学 総合人間科学部心理学科、公益社団法人被害者支援都民センター)
- A1-3 診療報酬の心理支援加算において EMDR をどのように活用するか
菊池安希子(武蔵野大学 人間科学部)
- A1-4 ト라우マフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)を心理支援加算で活用するために
福田 理尋(岡山県精神科医療センター)

■10:55～12:25 シンポジウムA2

現地開催

オンデマンド配信

アディクションとトラウマ

～薬物使用やリスクのある性行動の理解から～

企画者：野坂 祐子(大阪大学大学院 人間科学研究科)
座長：野坂 祐子(大阪大学大学院 人間科学研究科)
シンポジスト：野坂 祐子(大阪大学大学院 人間科学研究科)
梅田 靖規(一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ)
生島 嗣(ふれいす東京)
指定討論者：宮地 尚子(一橋大学大学院 社会学研究科)

- A2-1 アディクションのある人たちへのトラウマインフォームドケアの実践と課題
野坂 祐子(大阪大学大学院 人間科学研究科)
- A2-2 男性の依存症リハビリ施設でのトラウマ経験からの回復支援
梅田 靖規(一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ)
- A2-3 薬物使用するゲイ男性の性行動リスクやその背景にあるトラウマについて
相談・支援活動の現場から
生島 嗣(ふれいす東京)

■13:50～15:20 シンポジウム A3

現地開催

オンデマンド配信

シングルペアレンツの暮らしを支えるトラウマインフォームドケアの眼差し

企画者：大岡 由佳（武庫川女子大学 心理・社会福祉学部社会福祉学科）

座長：大岡 由佳（武庫川女子大学 心理・社会福祉学部社会福祉学科）

シンポジスト：丘咲つぐみ（一般社団法人 Onara）

秋山 怜史（NPO 法人全国ひとり親居住支援機構）

中島かおり（認定 NPO 法人ピッコラーレ）

池田 正人（社会福祉法人三誓会 母子生活支援施設サン・ロータス皆実）

A3-1 小児期逆境体験のある母と子

丘咲つぐみ（一般社団法人 Onara）

A3-2 シングルペアレンツの居住支援からみえてきたこと

秋山 怜史（NPO 法人全国ひとり親居住支援機構）

A3-3 孤立した若年妊婦への支援—妊産婦の居場所『ぴさら』の現場から

中島かおり（認定 NPO 法人ピッコラーレ）

A3-4 母子生活支援施設を利用する母子への支援にトラウマインフォームドケアを導入する意義—施設職員と母子の関係性への注目—

池田 正人（社会福祉法人三誓会 母子生活支援施設サン・ロータス皆実）

■15:30～17:00 シンポジウム A4

現地開催

オンデマンド配信

多職種で考える被害者視点からの「いじめ」とレジリエンス

企画者：榎屋 二郎（東京医科大学）

座長：和久田 学（公益社団法人 子どもの発達科学研究所）

榎屋 二郎（東京医科大学）

シンポジスト：曾我 智史（尼崎駅前法律事務所（弁護士・社会福祉士））

和久田 学（公益社団法人 子どもの発達科学研究所）

住友 剛（京都精華大学国際文化学部）

榎屋 二郎（東京医科大学）

A4-1 いじめ防止対策推進法 23 条 3 項の実質化—いじめ被害にあった子どもの支援

曾我 智史（尼崎駅前法律事務所（弁護士・社会福祉士））

A4-2 学校教育におけるいじめ被害とレジリエンス支援
～子どもの回復を支える学校風土～

和久田 学（公益社団法人 子どもの発達科学研究所）

A4-3 いじめ被害にあった子どもへの支援 —教育学研究者・実践者の立場から—

住友 剛（京都精華大学国際文化学部）

A4-4 子ども時代のいじめ被害による中長期的な心の傷と回復

榎屋 二郎（東京医科大学）

■17:00～17:05 閉会の挨拶

現地開催

オンデマンド配信

B 会場：中会議場 3・4 (2F)

■9：15～10：45 シンポジウム B1

現地開催

オンデマンド配信

Complex PTSD 診断を「斬る」：鑑別を中心に

企画者：大江美佐里（久留米大学 保健管理センター、久留米大学 医学部神経精神医学講座）

座長：八木 淳子（岩手医科大学）

大江美佐里（久留米大学 保健管理センター、久留米大学 医学部神経精神医学講座）

シンポジスト：千葉比呂美（久留米大学 医学部神経精神医学講座）

大江美佐里（久留米大学 保健管理センター、久留米大学 医学部神経精神医学講座）

山家 健仁（岩手医科大学 神経精神科学講座 / 児童精神科）

堀 有伸（ほりメンタルクリニック）

指定討論者：八木 淳子（岩手医科大学）

B1-1 Complex PTSD 診断

千葉比呂美（久留米大学 医学部神経精神医学講座）

B1-2 ICD-11 において Complex PTSD と Bordeline pattern はどう区別されているか

大江美佐里（久留米大学 保健管理センター、久留米大学 医学部神経精神医学講座）

B1-3 発達障害と CPTSD の鑑別—子どもの診療から見えるもの—

山家 健仁（岩手医科大学 神経精神科学講座 / 児童精神科）

B1-4 年齢層による症状出現の違い（事例を含めて）

堀 有伸（ほりメンタルクリニック）

■10：55～12：25 シンポジウム B2

現地開催

オンデマンド配信

こころのケアセンターの役割

企画者：前田 正治（福島県精神保健福祉センター、ふくしま心のケアセンター）

座長：前田 正治（福島県精神保健福祉センター、ふくしま心のケアセンター）

加藤 寛（兵庫県こころのケアセンター）

シンポジスト：加藤 寛（兵庫県こころのケアセンター）

矢田部裕介（医療法人信愛会玉名病院、熊本こころのケアセンター）

片柳 光昭（ふくしま心のケアセンター／前みやぎ心のケアセンター）

前田 正治（福島県精神保健福祉センター、ふくしま心のケアセンター）

B2-1 専従組織が直面する苦悩と課題

—こころのケアセンターの alternative はあるか—

加藤 寛（兵庫県こころのケアセンター）

B2-2 熊本こころのケアセンターをふりかえる

矢田部裕介（医療法人信愛会玉名病院、熊本こころのケアセンター）

B2-3 大規模災害後の心のケアセンターの役割とは何か～活動の開始、継続そして終結から見えてきたもの～

片柳 光昭（ふくしま心のケアセンター／前みやぎ心のケアセンター）

B2-4 ふくしま心のケアセンターの展開と課題

前田 正治（福島県精神保健福祉センター、ふくしま心のケアセンター）

■12:40～13:40 ランチョンセミナー②

現地開催

メンタルヘルスにおける心的外傷後ストレス障害

座長：音羽 健司（帝京大学医学部精神神経科学講座 教授）
演者：高塩 理（東京医科大学精神医学分野・東京医科大学八王子医療センター・リエゾンセンター）
共催：ニプロ株式会社

■13:50～15:20 シンポジウム B3

現地開催

オンデマンド配信

災害を振り返って・当事者と考えるトラウマティックストレスとレジリエンス

企画者：高橋 晶（筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学、茨城県立こころの医療センター 地域・災害支援部、筑波メディカルセンター病院 精神科）
座長：高橋 晶（筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学、茨城県立こころの医療センター 地域・災害支援部、筑波メディカルセンター病院 精神科）
シンポジスト：佐久間 篤（仙台医療センター精神科）
服部 優
吉岡 智子（石川県能登中部保健福祉センター 健康推進課）
大澤 智子（兵庫県こころのケアセンター）
宮崎 真澄（日産プリンス広島販売株式会社、株式会社日産サティオ福山）
指定討論者：高橋 晶（筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学、茨城県立こころの医療センター 地域・災害支援部、筑波メディカルセンター病院 精神科）

B3-1 DMAT 隊員が任務後に PTSD を発症してからの 9 年間
～トラウマ体験後の成長と回復のプロセスの 1 例～
服部 優

B3-2 令和 6 年能登半島地震の支援～被災者であり支援者として～
吉岡 智子（石川県能登中部保健福祉センター 健康推進課）

B3-3 被災者であり支援者だった私が阪神・淡路大震災から学んだこと
大澤 智子（兵庫県こころのケアセンター）

B3-4 地下鉄サリン事件 30 年ートラウマからの脱出
宮崎 真澄（日産プリンス広島販売株式会社、株式会社日産サティオ福山）

指定討論者 指定発言・過去の自然災害・人為災害の中長期の対応を風化させず、次の災害精神
対応に生かすために出来ること
高橋 晶（筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学、茨城県立こころの医療センター 地域・災害支援部、
筑波メディカルセンター病院 精神科）

紛争地域住民・避難民・難民へのメンタルヘルス支援

企画者：大江美佐里（久留米大学 保健管理センター、久留米大学 医学部神経精神医学講座）

座長：大江美佐里（久留米大学 保健管理センター、久留米大学 医学部神経精神医学講座）
井筒 節（東京大学 大学院農学生命科学研究科）

シンポジスト：ウリヤーノワ・スヴェトラーナ（JICA 本部中東・欧州部ウクライナ支援室）

田中英三郎（東京大学 教養学部附属教養教育高度化機構）

フランコーバ イリーナ（VU Amsterdam）

堤 敦朗（世界保健機関（WHO）西太平洋域事務局）

指定討論者：前田 正治（福島県精神保健福祉センター、ふくしま心のケアセンター）

B4-1 ロシアによる軍事侵攻開始後のウクライナメンタルヘルスケア体制の課題及び JICA 支援

ウリヤーノワ・スヴェトラーナ（JICA 本部中東・欧州部ウクライナ支援室）

B4-2 パレスチナ・シリア難民を含む子どもたちのメンタルヘルス—ヨルダン保健省における政策支援の経験より

田中英三郎（東京大学 教養学部附属教養教育高度化機構）

B4-3 "Lessons learned from the implementation of psychosocial interventions promoting mental wellbeing among Ukraine's displaced people in the EU". EU におけるウクライナ難民のメンタルヘルス向上を目的とした心理社会的介入の実施から得た教訓

Iryna Frankova（Department of Clinical, Neuro- and Developmental Psychology, WHO Collaborating Center for Research and Dissemination of Psychological Interventions, Amsterdam Public Health Institute, Vrije Universiteit Amsterdam, Amsterdam, Netherlands）

イリーナ・フランコヴァ（臨床、神経、および発達心理学部門、世界保健機関（WHO）心理的介入の研究と普及に関する協力センター、アムステルダム公衆衛生研究所、アムステルダム自由大学、アムステルダム、オランダ）

B4-4 国際精神保健の潮流と実務的視点

堤 敦朗（世界保健機関（WHO）西太平洋域事務局）

C会場：中会議場2（2F）

■9：15～10：45 シンポジウムC1

現地開催

オンデマンド配信

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターにおける支援及び運営の現状と課題

企画者：成澤 知美（武蔵野大学 人間科学部）
座長：櫻井 鼓（追手門学院大学、横浜思春期問題研究所）
成澤 知美（武蔵野大学 人間科学部）
シンポジスト：小西 典子（神奈川被害者支援センター 事業課 心理職）
松田 陽子（埼玉犯罪被害者援助センター）
直井 裕子（性暴力救援センター・東京（SARC 東京））
西中 詩帆（内閣府男女共同参画局 男女間暴力対策課）

- C1-1 ふたつの「ワンストップ支援」のつながりとしてー神奈川被害者支援センターの支援ー
小西 典子（神奈川被害者支援センター 事業課 心理職）
- C1-2 埼玉犯罪被害者援助センターにおける支援の現状と今後の展望
松田 陽子（埼玉犯罪被害者援助センター）
- C1-3 連携型ワンストップセンターの現状と模索
直井 裕子（性暴力救援センター・東京（SARC 東京））
- C1-4 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターについて
西中 詩帆（内閣府男女共同参画局 男女間暴力対策課）

■10：55～12：25 シンポジウムC2

現地開催

オンデマンド配信

ワンストップ支援センターと協働した性暴力被害者に対するオンライン持続エクスポージャー法の実施ーCBTを地方に届ける試みー

企画者：今野理恵子（武蔵野大学 認知行動療法研究所）
小西 聖子（武蔵野大学 認知行動療法研究所、武蔵野大学 人間科学部・人間科学科）
座長：小西 聖子（武蔵野大学 認知行動療法研究所、武蔵野大学 人間科学部・人間科学科）
浅野 敬子（武蔵野大学 認知行動療法研究所、武蔵野大学 通信教育部・人間科学部）
シンポジスト：中山 千秋（武蔵野大学 人間科学部、武蔵野大学 認知行動療法研究所）
今野理恵子（武蔵野大学 認知行動療法研究所）
山本このみ（武蔵野大学 認知行動療法研究所）
佐藤 浩子（NPO 法人千葉性暴力被害支援センターちさと）
指定討論者：井野 敬子（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）

- C2-1 被害者支援機関と精神科医療機関等との連携調査からの示唆
中山 千秋（武蔵野大学 人間科学部、武蔵野大学 認知行動療法研究所）
- C2-2 地域連携型オンライン TFCBT の実行可能性・安全性および効果
今野理恵子（武蔵野大学 認知行動療法研究所）
- C2-3 地域連携型オンライン TFCBT 実施後のワンストップ支援センターに対するインタビュー調査
山本このみ（武蔵野大学 認知行動療法研究所）

C2-4 ワンストップ支援センターからの報告

佐藤 浩子 (NPO 法人千葉県暴力被害支援センターちさと)

■13:50～15:20 シンポジウム C3

現地開催

オンデマンド配信

まず自分から—支援者も当事者として学ぶ—コミュニティ・レジリエンシー・モデル（コレモ）で考えるセルフケアとトラウマケア

企画者：小川恵美子（大阪大学大学院 人間科学研究科博士後期課程）

座長：小川恵美子（大阪大学大学院 人間科学研究科博士後期課程）

シンポジスト：服部 信子（個人開業）

小川恵美子（大阪大学大学院 人間科学研究科博士後期課程）

望来のりこ（精神科クリニック）

指定討論者：野坂 祐子（大阪大学大学院 人間科学研究科）

C3-1 支援者のセルフケア課題とコレモ活用：トラウマインフォームドなセルフケア実践とトラウマケアへの基盤作り

服部 信子（個人開業）

C3-2 支援者支援におけるコミュニティ・レジリエンシー・モデル（コレモ）の受容性と実用可能性

小川恵美子（大阪大学大学院 人間科学研究科博士後期課程）

C3-3 コレモで実践する自分とつながるケア：当事者としての取り組みと気づき

望来のりこ（精神科クリニック）

■15:30～17:00 シンポジウム C4

現地開催

オンデマンド配信

コミュニティでトラウマをワークする

企画者：櫻井 鼓（追手門学院大学、横浜思春期問題研究所）

座長：櫻井 鼓（追手門学院大学、横浜思春期問題研究所）

シンポジスト：泉川 容子（大阪府警察本部 生活安全部 少年課）

櫻井 鼓（追手門学院大学、横浜思春期問題研究所）

堀 有伸（ほりメンタルクリニック）

指定討論者：亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター）

C4-1 少年補導職員による再被害防止活動及び代表者聴取の実際

泉川 容子（大阪府警察本部 生活安全部 少年課）

C4-2 性犯罪被害者の心理鑑定から見える今後の課題

櫻井 鼓（追手門学院大学、横浜思春期問題研究所）

C4-3 原発事故被災者支援における葛藤と混乱の経験—支援者としての被災者に焦点を当てて—

堀 有伸（ほりメンタルクリニック）

D 会場：中会議場 1 (2F)

■9：15～10：45 一般演題① (口演)

現地開催

オンデマンド配信

座長：榊屋 二郎 (東京医科大学)
大岡 由佳 (武庫川女子大学 心理・社会福祉学部社会福祉学科)

- 0-1 児童相談所職員を対象としたトラウマインフォームドケア動画研修の効果：非無作為化比較試験
飯田 真子 (東京大学大学院 医学系研究科 精神保健学分野)
- 0-2 助産師を対象としたトラウマインフォームドケア動画研修の効果：無作為化比較試験
土肥 早稀 (東京大学 大学院医学系研究科精神保健学分野)
- 0-3 犯罪被害者遺族への警察の対応～発生直後の介入から長期的支援に至るまで～
菅原 卓人 (警視庁 総務部企画課犯罪被害者支援室)
- 0-4 警察組織における惨事ストレス対策－惨事ストレスケアチームの運用－
益田 尚美 (警察庁 長官官房人事課厚生管理室)

■10：55～12：25 一般演題② (口演)

現地開催

オンデマンド配信

座長：戸田 裕之 (防衛医科大学校 精神科学講座)
八木 淳子 (岩手医科大学)

- 0-5 小児期逆境体験のネットワーク構造に関する探索的検討
池田 龍也 (兵庫教育大学 大学院学校教育研究科)
- 0-6 小児期逆境体験および保護的・代償的体験が成人期のセルフ・コンパッションに与える長期的影響の検討
日比麻記子 (東京大学大学院 教育学研究科臨床心理学コース)
- 0-7 地震発災直後の小学生のストレス反応
矢島 潤平 (別府大学 文学部人間関係学科)
- 0-8 災害経験地域の学校における児童生徒を対象としたストレスに関する心理教育プログラムの開発
植田 峰悠 (北陸学院大学 社会学部、金沢大学 子どものこころの発達研究センター)
- 0-9 自殺リスクにおける感情制御の二面性：大規模データ解析による検討
千葉 俊周 (国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所 行動変容室)

■13:50～15:20 シンポジウム D3

現地開催

オンデマンド配信

「当事者」と考える医療観察事件の被害者と家族の支援－第4次犯罪被害者等基本計画見直しを見据えて－

企画者：渡邊 健（練馬わたなべ心理相談室）
座長：渡邊 健（練馬わたなべ心理相談室）
シンポジスト：大森真理子（医療観察法と被害者の会）
渡邊 健（練馬わたなべ心理相談室）
塩谷 幸祐（東京医療学院大学 保健医療学部看護学科）
柑本 美和（東海大学 法学部）

- D3-1 医療観察事件の被害者と家族の思いと「医療観察法と被害者の会」の活動
大森真理子（医療観察法と被害者の会）
- D3-2 医療観察事件の被害者とその家族が抱える特徴的な心理的困難と実際の支えのあり方
渡邊 健（練馬わたなべ心理相談室）
- D3-3 医療観察法の対象者が治療プログラムにおいて被害者と向き合う意味
塩谷 幸祐（東京医療学院大学 保健医療学部看護学科）
- D3-4 医療観察法における法的支援制度の充実に向けて－イングランドの改革の議論を参考に－
柑本 美和（東海大学 法学部）

■15:30～17:00 シンポジウム D4

現地開催

オンデマンド配信

音 VR による PTSD 治療の新展開（スマホ・イヤホン持参推奨）

企画者：井野 敬子（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）
座長：善甫 啓一（筑波大学 システム情報系）
シンポジスト：井野 敬子（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）
坂口 昌徳（国立大学法人筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構、
国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）
山内 由大（筑波大学 システム情報工学研究群）
指定討論者：金 吉晴（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）

- D4-1 音響 VR による PTSD 治療の新展開：視覚に依存しないエクスポージャー療法の可能性
井野 敬子（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）
- D4-2 PTSD 患者の睡眠特性と睡眠時音刺激治療の実現可能性
坂口 昌徳（国立大学法人筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構、国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）
- D4-3 治療者による操作でテーラーメイド音 VR を診察時間内に作成可能なシステム
山内 由大（筑波大学 システム情報工学研究群）